琉球大学学術リポジトリ
University of the Ryukyus Repository

| | |
|---|---|
| Title | 宮古・八重山諸島先史時代における文化形成の解明 : 遺跡属性と生態資源利用の地域間比較を通した文化形成の考察( Abstract_論文要旨 ) |
| Author(s) | 山極, 海嗣 |
| Citation | |
| Issue Date | 2016-03 |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/33725 |
| Rights | |

国立大学法人
琉球大学
University of the Ryukyus

様式第７号

# 学　位　論　文　要　旨

学位論文題目

## 宮古・八重山諸島先史時代における文化形成の解明
## －遺跡属性と生態資源利用の地域間比較を通した文化形成の考察－

琉球大学大学院
人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学生番号　　128092K

氏　名　　山極　海嗣

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数８００字程度）

本論は、宮古・八重山諸島における約4,000年前－11世紀後半に位置づけられる「先史時代」を対象とし、考古学的な分析と台湾・フィリピン地域の比較を通して、その文化形にすることを目的とする。

先史時代の宮古・八重山諸島おける物質文化は、沖縄諸島とは考古学的に異なっている。これは、この時期の宮古・八重山諸島が、沖縄諸島とは文化的に断絶していた可能性を示しており、その文化起源や関係は台湾やフィリピンへと求められている。しかし、並行する時期の台湾は、ユーラシア大陸から伝播する農耕文化の展開と、フィリピン等の南方へのオーストロネシア語族の拡散という文脈で捉えられており、これらの物質文化の特徴は完全には宮古・八重山諸島とは一致しない。これは宮古・八重山諸島の先史文化形成が、単純な伝播論的文化起源関係では説明できないことを示している。

また、宮古・八重山諸島は周囲を海に囲まれ、比較的面積の限られる島嶼地域であり、利用できる生態資源は島の地質によって限られている。これと同様の環境を示すリモート・オセアニアの先史時代では、文化形成と生態環境における資源利用の相関が示されており、土器や石器を製作・利用し、食糧獲得を基盤とした宮古・八重山諸島の先史文化形成に関しても、このような生態的視点からアプローチする必要性を示している。

そこで本論は、宮古・八重山諸島先史時代における物質文化を、生態資源利用とそれに伴う島々の間の人の移動から捉え直し、時空間軸上における遺跡の位置付けを行うことで、宮古・八重山諸島の先史文化における時間的変化と地域間変異を明らかにした。その上で、並行する時期の台湾・フィリピンとの比較を通して既存の南方起源論を検証し、宮古・八重山諸島の先史時代における文化形成を考察した。